



げんき通信

鴨池生協クリニック
小児科ニュース
No.287
2022年 9月

小児科診察室から 小児科医師 松下賢治

暑い夏が過ぎ9月になりました。蒸し暑い日が続きましたが、お盆を過ぎてからは朝が少しずつ涼しくなってきました。昨年もそうでしたが、お盆のころは梅雨の再来を思わせるほど雨が大量に降りました。夏の始まりはコロナ感染の爆発的で全体的な広がりには驚きました。鹿児島でも子どもたちに広がっており、まだまだ油断できません。子どものワクチン希望者が少しずつですが増えてきています。ワクチンを受けずに罹患するとウイルスを10日排出しているそうです。またワクチンを3回受けていたらウイルス4日排出(人に感染させやすい期間)で中和抗体ができて重症化しにくいそうです。色々情報がまとめられています。発熱者の中では、時々ヘルパンギーナもみられ、手足口病・胃腸炎・気温の変化で喘息が少し目立ちます。例年お盆明けは朝方冷えてくるので喘息が出始める時期です。気をつけていきましょう。

今年も全国でも指宿でも水の事故が起きてしまいました。海での湾岸流の怖さ、慌てて救助しようとする時のプールでの怖さなど対処法について考えさせられました。

さて、8/11の山の日には母校の総会が加治木の加音ホールで3年ぶりに200名の参加で開かれました。私が印象に残ったのは8/11は加治木中学の空襲の日で今回は高校1年生の子どもたちが被害者からの聞き取りとして80代後半になる3人の方の生の声を残す取り組みを10分間の動画にしてくれたことでした。36人の中学生が機銃射撃で亡くなったようで、毎年この日を大事にしていることをはじめて知りました。

今年は様々なメディアで、ガダルカナル島玉砕の真実、ミッドウェー海戦の真実など多くの証言にふれることができリアルに戦争の様子を思い浮かべることができました。若い人にただ戦争が良くないと言ってもなかなか通じないので証言・絵などを使い兵隊だけでない戦争の真実がよく描かれていましたのでウクライナのことよりもリアルに考える夏になりました。ドイツのヒットラーが障害者は生きる権利がない、ユダヤ人は生きる価値がないとして、エスカレートしていく様子もみることができました。

新聞では岸田首相が5月にイギリスで講演した内容が紹介されていましたが、大資本家たちの税金逃れ、政府の政策で金余りの中で金を分配する考えがないことが改めて分かりました。日本にも投資してくれという内容でした。日本でも黒田総裁も発言し問題になりましたが、ため込んでいる国民の預貯金から投資に回せの考えです。軍事費をあげ、年金を減らし消費税上げる施策をまだ続けるようです。戦後67年の広島ナガサキの日には黙祷をしましたが、広島・長崎の市長さんや子どもたちの発言に勇気をもらいました。ロシアのように核による威嚇はとんでもありません。使われたら世界は荒廃します。政府はアメリカの傘の元で戦争準備、軍事費増大を狙うようですが、人々の暮らし優先で安心して暮らせる生活についてみんなで考えていきたいものです。

最後に安倍元首相を狙った行為は許せませんが、その後に明るみになった統一教会という名前を隠してたくさん被害者から金を巻き取ったと報道されている事件には驚いています。宗教の道を誤ったときの怖さを考えさせられます。

インフルエンザ予防接種のご案内

今年度も当院ではインフルエンザの予防接種を開始します。

電話での事前予約制になりますのでご了承ください。(9/26予約開始予定)

<対象者>

* **9歳以上** … **1回接種**

* **生後6ヶ月～9歳未満** … **2回接種(間隔を2～3週間あけます)**



<予約時のお願い>

▲予約申込者以外の接種はできません。

▲予約時に来院時間を確認させていただきます。混雑防止のため時間通りの来院をお願いします。

▲2回接種対象者の方は予約時に2回目までの予約をお願いします。

今年は希望者が多くなることが予想されるため7クチン確保の確約ができなくなる場合があります。

<接種日> (10/17～予定)

通常診察日の月・金曜日 15:00～17:30

インフルエンザ予防接種のみの特別日 10/22(土) 11/5(土) 11/19(土) 12/3(土)
14:00～16:00

<料金>(予定)

組合員:2750円(税込) 非組合員:5137円(税込) 詳しくは当院までお問い合わせください。

鴨池生協クリニック ☎099-252-1321

※お問い合わせ・ご予約は14時以降をお願いします



～鹿児島市感染症情報～

<流行の傾向>

1. 感染性胃腸炎
2. 手足口病
3. ヘルパンギーナ
4. RSウイルス
5. 突発性発疹

今年初めて、インフルエンザの患者報告がありました。他の地域では集団発生の事例もあり、今シーズンは新型コロナウイルス感染症との同時流行も懸念されていますので基本的な感染対策に加え、備えとしてワクチン接種を検討してください。